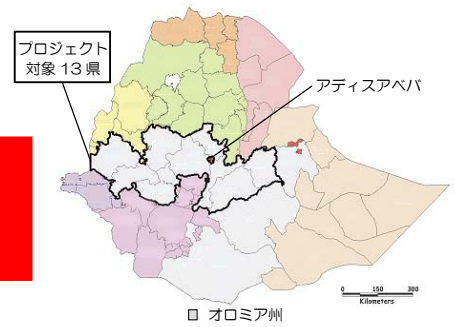




Ho! ManaBUしんぶん

子どもの笑顔に会うために！

2011.12.7 No.37



自作の研修教材にびっくり！

～ 改訂版「中途退学」研修の視察～

オロミア州教育局（OEB）がHo! ManaBU 研修を全州に普及させる計画（OEB 主体計画）の州トレーナー養成研修（しんぶん 36 号参照）が終了した直後、本研修に参加した北ショア県アラルトゥ郡フルファ・ビドクラスター・リソースセンター（CRC）担当官から早速、研修で紹介した改訂版の「中途退学」研修を地域住民を集めて実施するとの連絡が入りました。それを受け、OEB プロジェクト課のエキスパート、アブドゥーナ・ブタ氏、プロジェクト活動のモニタリングを実施しているローカルコンサルタント（本しんぶん「モニタリング中間報告」を参照）、アラルトゥ郡教育事務所の行政官と共に、プロジェクトスタッフも含め総勢 8 名という大所帯で、11 月 7 日、フルファ・ビド小学校に向かいました。幹線道路からぬけ、学校に向かう途中は、家がポツポツとあるだけで、草原が広がっているばかり。どこから児童が来るのだろうと思ひながら、学校に到着すると、多くの元気いっぱいの子どもたちが笑顔で迎えてくれました。そして、研修が実施される教室に入ると、すでに席が足りないほど地域住民が集まっています。この学校では、昨年度にも「中途退学」研修を地域住民



熱心にゲームの説明を聞いている地域住民、児童、教員たち。大盛況でした。

に対して行なったことですが、今年度に入り、また中途退学率が上がってきたことから、再度、研修を実施することにしたそうです。ほとんどの参加者が昨年の研修に参加しておらず、まずは研修ルールや研修実施の背景の説明から入りました。

改訂された「中途退学」研修では、ゲームに参加する児童役キャラクターの数を 6 人から 4 人に減らし、議論すべきカードの数を減らすなど、いくつかの点でゲームのルールが簡素化されており、研修は参加者が飽きることなく、効率的に進行されていきました。研修での議論の中で、この学校の中途退学の理由が、参加者から挙げられました。主な理由としては、農作物の収穫期に子どもを手伝わせたり、また、女兒の場

合は水くみや食事の支度など家事をさせたりする家庭が多いこと、自分の娘を家政婦としてアジスアベバに出稼ぎに出す家庭が増えていること、また、通学途中の女兒の誘いが多発していることなどが挙げられました。他には、研修中に、ある母親が自分が子どもの頃に学校に行けなかった話をして、今、女の子を学校に通わせるよう、親としての責任をしっかりと持つべきと熱く語っていました。また、研修参加者の中には、児童や教師も参加しており、それぞれの立場から中途退学削減に向け何ができるかを議論していました。

ゲーム終了後、ファシリテーター（進行役）が、参加者にゲームの感想を聞くと、「私たちは、中途退学を減らすために現在努力しているが、この研修を通じて、中途退学に関する洞察をさらに深めることができた」、「ゲームを通して中途退学の悔しさを感じることができた」、「中途退学の理由を知ることができた」などの感想が聞かれ、参加者の意識が高められた研修だったことを改めて実感することができました。

最後に、ファシリテーターを担当した CRC 担当官が、参加者に対して「Ho! ManaBU プロジェクトは、私たちに魚をくれるのではなく、魚の釣り方を教えてくれているのです。私たちはプロジェクトから自分たちでどのように学校活動を改善していくかの方法を教えてもらっていることに感謝しましょう」と締めくくりました。この話は、実は、昨年 11 月に実施された Ho! ManaBU ワークショップで、前プロジェクトリーダーのフラ（野邊節専門家）が参加者に伝えた言葉です。こんな形で地域住民にまで伝わっていることにとっても感動してしまいました。



CRC 担当官自作の中途退学研修ゲームシート。自慢気に披露していました。

もう一つの感動といえは、なんと、より多くの衛星校でも研修ができるようにと、CRC 担当官が中途退学研修のゲームシートを自力で作成したことです。もちろん、見栄えは、プロジェクトから供与したのものには比べられませんが、本視察に同行した、この研修教材開発の立役者でもある、ガラナ（菊池洋専門家）も担当官の意気込みにうなっていました。

OEB 主体計画教材配送スタート！

～ 郡・特別市トレーナー養成研修に向けて～

10 月末にアジスアババでの州トレーナー養成研修を終え（しんぶん 36 号参照）、いよいよ郡・特別市トレーナー養成研修（郡・特別市行政官を対象に主要県にて実施）に向けた本格的な準備が始まりました。現在、研修日程の調整や予算の確保など、研修実施に向けて OEB 関係者とプロジェクトは日々協議を重ねています。本研修の実施にあたっては、予算確保や日程調整という課題に加え、オロミア州の全郡・特別市教育事務所にいかに Ho! ManaBU 研修教材を配布するかということを考えなければいけません。各郡・特別市教育事務所に配布される研修教材の数は、各郡・特別市の CRC の数によって異なり（3CRC につき 1 セットの教材を配布）、多いところでは一つの郡教育事務所に 9 セット（教材 1 セットの内容は女子教育研修バック、中途退学研修バック、中途退学研修のゲームシートの入ったシリンドラケースの計 3 つのバック）で、合計 27 バック（9 セット×3 バック）の教材が配布されることとなります。この研修教材を研修会場から行政官が各郡・特別市教育事務所に持ち帰るのは至難の技です。そこで、プロジェクトと OEB の協議の結果、以下の方法で教材を配送することにしました。まずは OEB のトラックで研修教材を各県教育事務所に配布し、保管を依頼します。その後、プロジェクトの車で各郡・特別市教育事務所に配送する流れにしました。



Ho! ManaBU 研修教材の積み込み作業の様子

この郡・特別市トレーナー養成研修は、実施を 2 つのフェーズに分け、まずは中途退学や女子教育の問題が色濃い、バシ県、ボシナ県、グシ県、西ハレルグ県、東ハレルグ県の 5 県が第 1 フェーズのグループとして設定されました。したがって、教材配送もこれら 5 県から始めることになりました。

11 月 24 日、第 1 フェーズ 5 県分の教材を積んだトラックが出発し、現在、これら 5 県の約半分の郡・特別市教育事務所への教材配送が完了しました。オロミア州の全 304 の郡・特別市教育事務所に配布し終わる日まではまだまだ遠い道のりですが、Ho! ManaBU 研修がオロミア州に普及される大きな第一歩なので、確実に教材が届くよう、着実に配布支援をしていきたいと考えています。

モニタリング中間報告

～ コンサルと二人三脚～

前号から登場しましたモニタリング体制強化担当の加藤泰彦、オロモ名 Chala（チャラ）です。早いもので着任してもう 1 カ月が過ぎてしまいました。さて、この 1 カ月で行った事は、「ローカルコンサルタントと協働して、11 月中旬からの Ho! ManaBU 研修モニタリングのトライアルを通じてのツール開発」と「12 月中旬からの開発ツールを使ってのモニタリング本格実施に向けての下準備作業」です。今まで教育に限らず、色々な国の色々なセクターの JICA 業務で、ローカルコンサルタントの現地再委託監理を手がけてきたので、来る前から覚悟は出来ていましたが、エチオピアもやはり一筋縄にはいきませんでした。モニタリングツール開発（主に質問票と Excel データ入力フォーム作成）、報告書の目次も含めて、相当部分を穴埋め式のようにこちらでフォーマットを用意し、出てきたものを添削して直して、また直しての繰り返しです。ほとんど全てにわたって手取足取りせざるを得ません。

でも、今一緒に仕事をしているローカルコンサルタントは本当に仕事にひたむきで真面目で、手抜きや指示待ち、ごまかしは一切しません。そこが彼らの良いところです。ですので、今回のモニタリング監理（と言うか実質コーチング）、私も彼らのためなら一緒に頑張ってみようじゃないかという気になっています。

11 月下旬に数日間、モニタリング試行をするため、ローカルコンサルタント調査チーム 6 名と一緒に北ショア県の数カ所の CRC、郡・特別市教育事務所を訪問し、開発した質問票を使ってのインタビュー調査に同行しました。1 か所 1 時間半から 2 時間かかる長いインタビュー、学校側も最後まで真摯（しんし）に回答してくれ、エチオピア人は真面目だと実感しました。



学校でのインタビュー。長い時間にも関わらず丁寧に回答してくれました。

さて、私の 1 回目の任期、余すところあと 2 週間となりました。駆け足でのモニタリング試行でしたが、それでも色々な教訓・事実を学んだので、ローカルコンサルタントとそれらを取りまとめ、モニタリング本格実施のためのツール最終版作成を進めている最中です。12 月中旬から本格実施を開始予定ですが、出来れば現地インタビューのキックオフを実際に見届けてから帰国したいものです。ローカルコンサルタントとの二人三脚は帰国の間際まで続きそうです。尚、私の 2 回目の任期は来年 1 月末から 3 月頭までの予定です。